

決勝戦のカードは3年連続で郡山商業高校と福島西高校の一戦になった。

第1ピリオド、お互いハーフコートマンツーマンでスタート。立ち上がり郡山商業（以下「郡商」）は#8岡部のフリースローや早い展開のオフェンスで攻める。一方、福島西（以下「福西」）はオフェンスリバウンドやインサイドで得点を重ね、14-14の同点で第1ピリオドを終える。

第2ピリオドに入り、福西は#10吉田、#15佐藤を中心とした厳しいディフェンスでボールを奪い得点すると、郡商はタイムアウトを請求する。ここから郡商はディフェンスをゾーンプレスに変更。前線からのプレッシャーを強め、早い展開から#7面川や#10佐藤がシュートをねじこみ、32-26と郡商が逆転し第2ピリオド終了。

第3ピリオド、郡商が厳しいディフェンスをしかけ、8秒オーバータイムを何度も引き出し、#7や#9関根の得点へとつなげていく。福西は#9渡邊のリバウンドシュートなどで点数を重ねていき、43-42と郡商がリードして第3ピリオド終了。

第4ピリオド、序盤、郡商は多彩な攻撃で得点し、残り7分、#7のジャンパーが決まった所で福西はたまたまタイムアウト。ここから福西の反撃が始まり、#8梅津の3Pシュート、#14松本のシュートで49-51と2点差まで迫る。郡商は思うような攻撃が出来なくなり、残り4分半でタイムアウト。しかし、その後も思い切ったオフェンスを仕掛けることが出来ず、福西#9のジャンパー、#8の3Pシュートで逆転を許す。最後は郡商#7に託されたボールを厳しいディフェンスでシュートまで持ち込ませずタイムアップ。51-54で福西が2年ぶり18回目の優勝を飾った。

最後までどちらに転ぶかわからない、決勝戦にふさわしい見応えのある試合だった。